

4. 総括研究報告書

課題 2A

免荷（TCC）による外来治療の検討

わが国では、屋内で靴を脱ぎ畳の生活であることや、体重が軽く、体型も小さく欧米人と異なるので、欧米でのデータをそのまま使用できない。一方、わが国における下肢創傷治療と免荷装具についての研究は殆どない。そこで厚労省指定研究大浦班として下肢の創傷治療の観点から免荷についての効果の検討を行い、免荷装具が適切に使用できた群とできなかった群にわけて検討し、更に外来における糖尿病性神経障害の足病患者の創傷治癒日数を遡及的に検討を行った。（P15 の課題 2A Fig2 参照）

一般的に創傷治癒期間と創傷の大きさは比例するが、今回の検討では有意差はないものの、免荷の影響が創傷治癒期間に与える影響が大きいことが示された。

免荷装具を適切に用いた治療群と免荷装具を適切に用いることができなかった群との比較では創傷治癒日数の中間値が、適切免荷群で 91 日、不適切免荷群で 166 日と有意に免荷群の創傷治癒が早く、免荷の有用性が示された。

TCC が創傷治癒に効果的影響を及ぼすことが明瞭である。今後、免荷装具を普及させるべく啓発し、TCC 導入によって外来において免荷をしながら入院させずに治癒させる治療法を推し進める必要がある。